



今後の貝森小のあり方等について話し合う地域懇談会が設置されました。これまで開催された準備会と懇談会の概要を貝森小学区内にお住まいの皆様にお知らせします。

地域懇談会について

○地域懇談会とは

地域社会の次世代の担い手である子どもたち一人ひとりの可能性を広げるために、教育委員会が平成 20 年 8 月に策定しました「仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた基本方針」及び「同実施方針」に基づき、教育環境や地域コミュニティと学校の役割などについて、保護者及び地域関係者から選出された地域委員が継続性を持った協議を行い、学校の存続、統合について判断をするための会議です。



○地域懇談会設置までの経過

教育委員会では、貝森小の保護者の皆様や貝ヶ森地域にお住まいの皆様に、「仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた基本方針」及び「同実施方針」の内容と少子化を背景とした学校を取り巻く現状や貝森小の児童数の将来推計などについてお伝えする地域説明会や、貝森小の今後のあり方などについてご意見を伺う意見交換会を行い、懇談会を設けて子どもたちのより良い教育環境のあり方について具体的に話し合いを進めたい旨を提案してまいりました。

その中で、『懇談会を行なっているいろいろな意見を出したほうがよい』といったご意見や、『存続、統合について中途半端な状況は良くないので懇談会を開いて方向性を定めたい』といったご意見をいただきましたことから、保護者・地域の皆様が貝森小の存続、統合について判断をするための話し合いを行う懇談会を設置することとなりました。

地域懇談会準備会

日時：平成 24 年 6 月 16 日（土）18：00～20：10
8 月 4 日（土）10：00～10：15
場所：貝森小学校 3 階 オープンスペース(図書室)
内容：1. 地域懇談会について
2. 地域懇談会規約について
3. 地域懇談会のテーマについて

地域委員が、懇談会の設置趣旨や運営方法などについての規約を定めました。あわせて、意見交換のテーマについて確認しました。

なお、協議期間については、懇談会の中で決めることとなりました。



地域懇談会の予定

回数と意見交換のテーマ(案)	
第 1 回	子どもの教育環境
第 2 回	より良い教育環境の実現
第 3 回	学校と地域コミュニティ
第 4 回	今後の貝森小のあり方
第 5 回	
第 6 回	懇談会としての結論

意見交換のテーマは、貝森小統廃合を考える会が平成 19 年 6 月に行いました「地域住民アンケート」や貝森小 PTA が平成 22 年 7 月に行いました「貝森小統廃合についてのアンケート」を参考にして設定しました。

懇談会の回数とテーマはおおよその目安とし、地域委員の意見を取り入れながら、必要な事柄について話し合っていくこととなりました。

第1回貝森小学校地域懇談会

日時：平成24年8月4日（土）10：15～12：10

場所：貝森小学校 3階 オープンスペース（図書室）

意見交換

- （1）現代の子どもたちに身に付けさせたい力について
- （2）貝森小学校の現状について

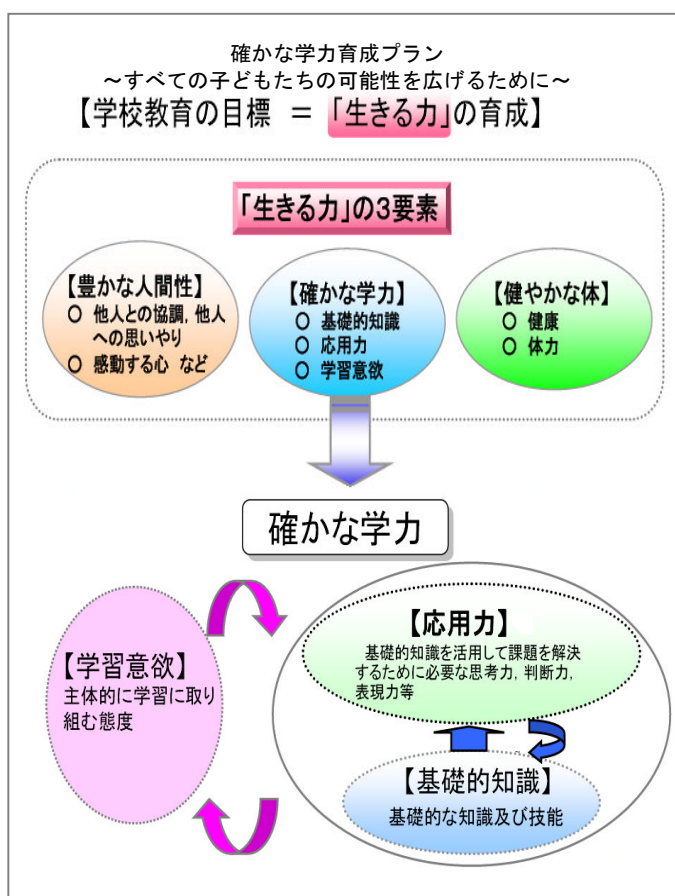
懇談会の傍聴に関するルールづくりについて提案があり、事務局案を第2回懇談会で地域委員に諮ることとなりました。

■意見交換

（1）現代の子どもたちに身に付けさせたい力について

子どもたちに身に付けさせたい力の内容と必要な教育環境について教育委員会の考え方を説明し、話し合いを行ないました。

【当日資料（抜粋）】



【当日説明（概要）】

現在は社会経済が大きく変化してきており、子どもたちが大人になり、社会に出た際に実生活で判断に迷う場面が多くなってきています。

学校では子どもたちがそのような社会でも生き抜くことのできる力を身に付けさせようと努力しています。

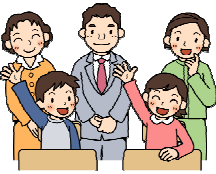
現代の子どもたちに身に付けさせたい力としては、基礎的知識や応用力、学習意欲といったいわゆる「確かな学力」に加え、社会的に自立ができるよう、「人や社会とのかかわる力」などがあります。

学校ではそのような力を身に付けさせるために、学習形態や指導方法に様々な工夫を行っていますが、ある程度の数の子どもがいますとさまざまな場面に応じた多様な活動の設定がしやすくなりますし、考えや価値観の違いなどに気づく機会にもより恵まれると考えています。

委員等の主な意見

- 兄弟で貝森小に通ったが、年齢に応じた人とのかかわりを経験できた子もいれば、人間関係が固定化したまま過ごしてしまった子もいた。
- 人間関係が良好な学年を経験したが、子どもたちに思いやりの心やお互いを分かり合う力が育っていたと感じた。一方で他の学年では、子どもたちの成長があまり感じられないこともあった。大規模校が良いか、小規模校が良いかということはいくらも考えていくことだと思う。





○ 貝森小は現在1学年1クラスだが、授業参観などで子どもたちの様子を見ると、人数が少ないから一人ひとりが活躍する場が増えたり、積極性が出たりということがあり、小規模校のいい面が出ている。また、5年6年と長い時間をかけて、子ども同士が深い付き合いをしていると感じている。人と人の付き合いを学ぶという点でも、小規模校の良さが出ていると思う。

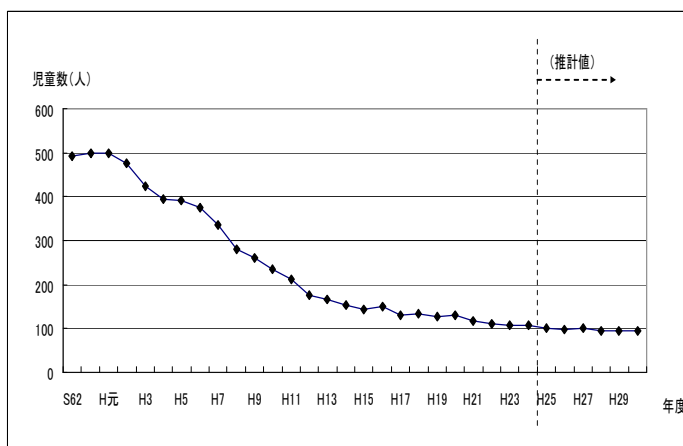
- 子どもの数が多いと、一人ひとりの個性が埋没してしまう傾向があると思う。子どもの数が少ないと、お互いを良く理解することができ、思いやりのあるアットホームな関係が生まれて、埋没しがちな子どもが力を出すことができ、良い経験ができる。ただ、落ち着かなかったりまとまりが出たりと集団には波があり、子どもの数が少ないとそれが若干大きいという気がして、小規模校がいいのか、大規模校がいいのか、一概には決められないとも感じている。
- 例えば1学年20人という現状があれば、その中でどうやっていくか考えることもひとつの方法であると思う。また、どちらが良かったのかと後になって悩むよりは、貝森小が存続した場合と国見小と統合した場合の予想図をしっかりとシミュレーションして話をしていくことが大事だと思う。

(2) 貝森小学校の現状について

貝森小の児童数の推移と将来推計と、小規模校の場合と一定規模の学校の場合の学習意欲向上の取り組みや人間関係の築き方、学習活動について説明し、話し合いを行ないました。

【当日資料(抜粋)】

【貝森小児童数の推移】



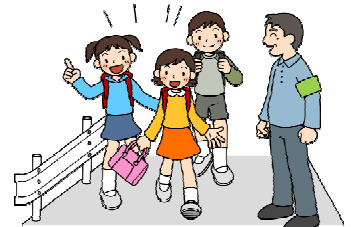
【貝森小児童数将来推計(平成24年5月1日現在)】(人)

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
1 学年	15	16	16	18	11	19	15
2 学年	18	15	16	16	18	11	19
3 学年	19	18	15	16	16	18	11
4 学年	15	19	18	15	16	16	18
5 学年	19	15	19	18	15	16	16
6 学年	20	19	15	19	18	15	16
児童数計	106	102	99	102	94	95	95

※特別支援学級の児童を除く

委員等の主な意見

- 貝森小学区から国見小に通っている児童がいるということだが、どういう事情があるのだろうか。
⇒ 仙台市は学区制を取っておりますので、お住まいの地域の学校に通うことが基本です。ただ、保護者が仕事の都合で学区外の親族に子どもを預けなくてはならない場合や、在学中に学区外に転居した場合など、学区外の学校に通学することを認める場合があります。(教育委員会)
- 子どものことを考えると、貝森小の現状を何とかしないといけないと思うが、町内会の活動や地域の諸団体の活動などに影響が出ると思われ、ただ単に学校の存続か統合かという話ではないと考える。
- 貝ヶ森地域の人口が増え、児童数も増えるかもしれないので、性急に統廃合の検討を行うことなく、長い目で見ていただきたい。
- 小規模校だから子どもがかわいそうということはない。人間関係が密に出来て良かったということもあると思う。子どもは適応力があるので、小規模校でも大規模校でもやって行けると感じている。



第2回貝森小学校地域懇談会

日時：平成24年10月27日（土）10：00～12：00
 場所：貝ヶ森市民センター 2階 会議室
 1. 傍聴に関する取り扱いについて
 2. 意見交換
 より良い教育環境の実現について

「傍聴に関する取り扱い」を
 決めました。第3回懇談会か
 ら、地域の皆様に開催のお知
 らせを行うこととなりました。

■意見交換

より良い教育環境の実現について

懇談会準備会や第1回懇談会で『統合した場合と統合しない場合のメリット・デメリットを比較して話し合った方がよいのではないか』という意見がありました。そのため平成22年7月に貝森小PTAが保護者を対象に行いました「貝森小学校統廃合についてのアンケート」の結果報告から、統合した場合としない場合の不安について自由記述で回答があった部分を整理して紹介し、子どもたちにとってのより良い教育環境とは何かについて話し合いを行ないました。

【当日資料「貝森小学校統廃合についてのアンケート」の結果報告（自由記述）から（抜粋）】

1 統合した場合の不安について、どんなことがありますか？（国見小と統合した場合）

項目	内容
子どもの数	少人数で生活することに慣れている子どもが大人数の中に入ったときの人間関係。 大人数だと教師の目が行き届くのか不安。
通学・安全	学校が遠くなる。
国見小	受け入れ校の校舎の問題(1学級あたりの人数)、校庭の問題(広さ)
地域との関係	地域との交流が薄れる。
跡地利用	避難場所やスポーツでの体育館が使用できなくなる。

2 統合しない場合の不安について、どんなことがありますか？（貝森小存続の場合）

項目	内容
子どもの数	クラス替えもなく少人数の限られた友人関係だと視野も狭く成長に乏しい。 集団にもまれてたくましく育つのに少し欠ける。競争の中で成長出来る子も多くいる。 1クラス15人を切ってしまうと、保育園より少ないことになってしまい、集団生活、グループ活動といったことが十分にできないと思う。 児童数がどんどん減っていくこと。
PTA活動	人数が少ないためPTA等で個々の保護者の負担が大きくなるのではないかと。

3 その他、統廃合についての自由意見

項目	内容
学区	学区を広げて、もう少し人数を増やしてほしい。
跡施設	もし統廃合になったとして、学校を市民センター、保育所、老人ホーム、研修センターのように使えないのでしょうか？

委員等の主な意見

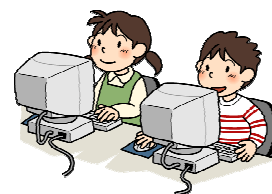
- クラス替えがないと、例えば1年生で揉め事が起きてしまったら6年間同じ状態が続く可能性があり、その場合子どもも保護者も大変な思いをしていくのではないかと。
- 中学校では2つか3つくらいの小学校の子どもたちが一緒になる。小学校のときに勉強面で競争の経験が少なかったり、学校行事などで決まった役割しか経験してこなかったりということがあると、中学校に入学当初は人間関係で苦労するのではないだろうか。
- もし統合して国見小に通う場合、JR東北福祉大駅付近の登校時間帯の交通量が多くて心配である。



- 仮に統合した場合、国見小は校庭がだいぶ狭いのではないかと。教室の数はどうなのか。
- ⇒ 国見小は以前より児童数が少なくなっていることもあり、仮に統合しても、教室の数が足りなくなることはありません。(教育委員会)

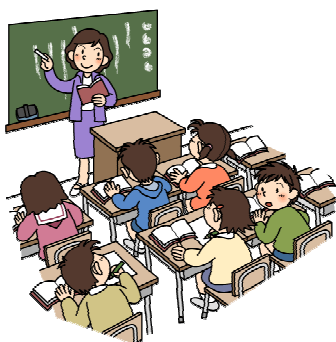
- 国見小の校舎は、貝森小と比べて遜色無いものなのか。例えば貝森小にはオープンスペースがある。そういったスペースが国見小にはあるのだろうか。

- ⇒ 国見小の校舎には、少人数指導の教室や空き教室などもあり、学校の施設として必要なものは貝森小と同様にそろっています。(教育委員会)



- もし貝森小の子どもが国見小に行くことになると、授業の進め方やテストの内容が違って困ることがあるのではないかと。

- ⇒ 授業の進め方については、1クラスの児童数に違いがあるので、学習形態や学習方法で変わる部分も出てくると思います。テストの内容については、問題の出し方等の違いはありますが、どの学校も学習指導要領に則って子どもたちに教えていますので、評価等が変わることはありません。(教育委員会)



- 学校は教育課程に従って子どもたちを育てていくと考えたとき、貝森小のような小規模校にはどのような課題があると認識し、その上で統合をどう考えたのか。

- ⇒ 小規模校であっても、子どもや地域の実態に合わせながらしっかりと教育活動を行っていると思います。一方で、学年に2クラス以上あるような規模の学校ですと、授業でグループを作りやすかったり、スポーツで複数のチームを作ることができたりと、学習活動に広がりが出てきます。また、学年に複数の先生がいることで、授業の進め方などの相談がしやすいといった面もあります。教育活動がよりバリエーション豊かにできるという意味で、一定規模の確保が必要と考えています。(教育委員会)

- 学校が小規模だと子どもに先生が目が行き届くということは分かるが、中規模程度の学校の先生同士の打合せや会議や子どもへの対応はどうなっているのか。

- ⇒ 中規模程度の学校になると、学校全体で行う職員会議のほかに学年会議というものがあり、授業の進み具合を確認して進度を調整したり、子どもの状態について複数の先生で確認をしたりしながら指導しています。また、学校には国語や算数など教科ごとに主任がいますが、複数の教員がいることで学年の先生の中で教科担当を割り振ることができ、教科の学習指導や校内研究など多くの教員で話し合うことでより良い教育効果が生まれます。(教育委員会)

- 貝森小のような小規模校での子どもへの対応はどうなっているのか。

- ⇒ 一人ひとりの日々の変化など、子どもの状態の把握がしやすいという良さがあると思います。対応については学年部で行ったり、学校全体で行ったりしながら確認しています。(教育委員会)

- 学年に複数の先生がいて、先生同士で切磋琢磨をしていろいろな意見や考え方を授業に生かしていくことは素晴らしいことだと思う。

- 国見小との間で学区変更を行い、貝森小の児童数をある程度の数に保つことは考えていないのか。

- ⇒ 貝森小を仙台市が適正規模と考える12学級にするためには、国見小との間だけではなく、周辺の複数の学校が関係する学区の修正を行う必要があります。複数の学校がかかわる学区修正はそれぞれの学校や地域に与える影響が大きく、現実的に難しいと考えています。(教育委員会)

- 統合した場合の跡施設の利用について、一例を知りたい。

- ⇒ 横浜市の例ですが、校舎の跡施設を地域包括支援センターという高齢者の相談施設としての利用と、地域の方々による利用をあわせた、複合施設としての利用例があります。(教育委員会)

- 子どもの教育環境は住まいを選ぶときに大事な条件なので、地域にとって学校の存在は大切である。

- 小規模校、中規模校それぞれの良さについて話があったが、どちらが良いかという判断は難しいと思う。また、貝ヶ森地域の環境が変わるということも検討すべき課題で、地域がこうなるだろうという設計図や予想図などがあると議論がしやすいと思う。



第3回貝森小学校地域懇談会

日時：平成24年12月9日（日）10：00～12：00

場所：貝ヶ森市民センター 2階 会議室

内容

1. 貝森小学校地域懇談会ニュースについて
2. 意見交換
学校と地域コミュニティについて

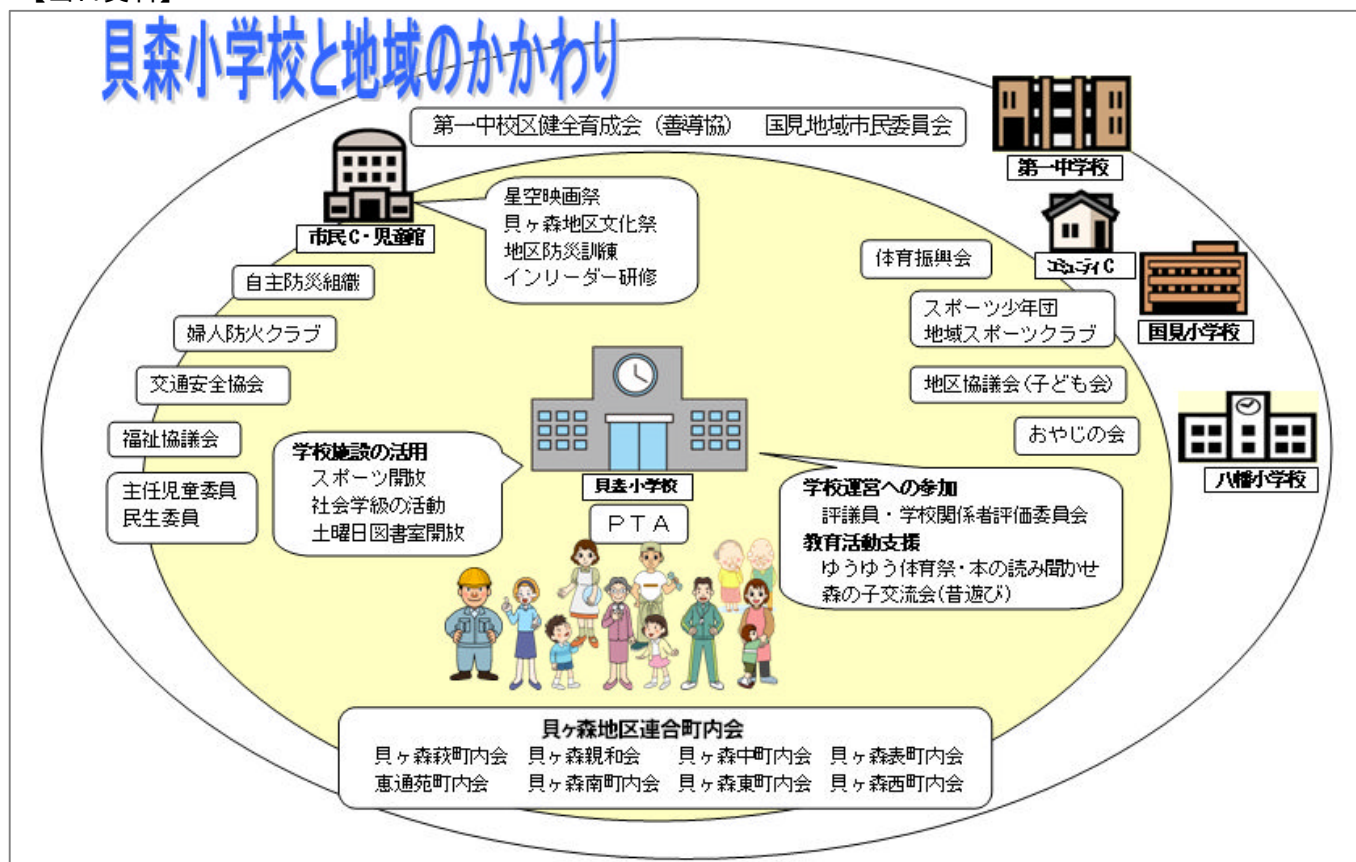
懇談会の概要を、地域の皆様にお知らせするため、貝森小学校地域懇談会ニュースを発行することになりました。

■意見交換

学校と地域コミュニティについて

現在の貝森小と地域のかかわりや、統合した場合の変化や影響について話し合いを行ないました。

【当日資料】



【当日説明(概要)】

貝ヶ森地域は第一中学校区を中心に、貝ヶ森連合町内会や国見連合町内会とのかかわりの中でいろいろな団体等が組織され、様々な活動を行っています。

第一中学校区健全育成会や国見地域市民委員会では、2つの連合町内会の方々と関係する小・中学校の教職員が委員となって話し合いを行ないながら、地域の子どもの成長を見守っています。

貝森小学校区にも多くの組織や団体があり、例えば体育振興会では学校やPTAと共催をして「ゆうゆう体育祭」など地域が一体となった行事を行っています。また、貝森小の学校運営に保護者や地域の方々が学校評議員制度等を通して参加したり、地域の方々やボランティア団体が、教育活動等の支援を行って学校を支えていただいています。

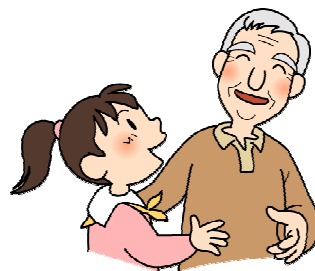
一方で、学校や子どもたちも地域の活動に積極的に関わっており、市民センターを会場に行われる「星空映画祭」や「貝ヶ森地区文化祭」等は、子どもたちが楽しみにしている地域の行事となっています。

学校は子どもだけでなく保護者や地域の方々の生涯学習の場としても使用され、校庭や体育館はスポーツ開放として、校舎は社会学級や土曜の図書室開放などに活用されており、子どもたちの教育施設としてだけでなく、地域とのかかわりも深くなっています。

委員等の主な意見

【貝森小と地域のかかわり】

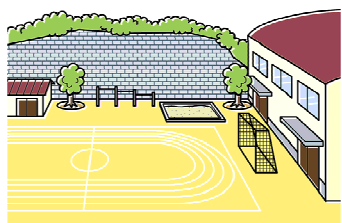
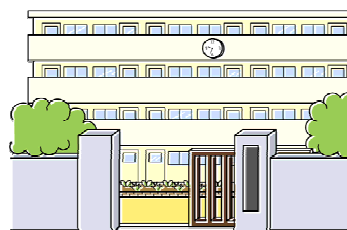
- 町内会や子ども会の活動が活発で、いろいろな行事を通して子どもたちが育っていけるのは良い面だと思う。
- 夏祭りや敬老会に子どもたちが参加しているが、町内会が発表の場を提供しているという側面もあると思う。また、高齢者など地域住民が子どもたちから元気もらい、町内が活性化しているとも感じる。
- 公園愛護協力会では、1号公園のごみ拾いや遊具の安全確認など公園管理の手伝いをしており、子どもたちも活動に参加している。また、体育振興会は貝森小開設と同時に設立され、学校と深い関わり合いを持って活動している。



- 公園愛護協力会や体育振興会の活動はとても大切であるが、小学校があるからそれら団体の活動があるというわけではないし、団体の活動と学校の教育をつなげてはいけないと思う。
- ゆうゆう体育祭は、以前は学区民運動会と称していたが、もう少し活気があった。最近では子どもの数が少なくて、お年寄りや町内会の方々が中心となっている状況である。
- 少子化でいろいろな活動ができなくなってきた。連合町内会、体育振興会など運営が困難になってきており、やはり学校にはある程度の規模が必要だと思う。

【統合した場合の変化や影響】

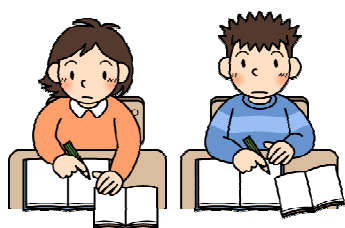
- 地域の発展は学校があるからで、学校がなくなると転入者が少なくなり、高齢者だけの団地になる。
- 統合した場合、小学校の施設がどうなるかわからないと行事など今後のことを考えづらい。
⇒ 泉区の松陵小と松陵西小の事例では、松陵西小の校舎を新しい学校の校舎とし、松陵小の校舎が跡施設となりますので、地域の方々と協議会をつくり跡施設の利活用について話し合っています。また、地域の方々の「スポーツ施設開放を続けてほしい」「コミュニティセンターの様な施設にしてほしい」というような要望についても協議会の中で話し合っています。(教育委員会)
- 貝森小のほうが校舎が新しいが、統合した場合に貝森小を利用することはありえるのか。
⇒ 貝森小と国見小の子どもたちが一緒に学校生活を送るには、貝森小の教室数が不足しておりますので困難です。(教育委員会)
- 貝森小の体育館がなくなると、貝ヶ森の方々が活動場所に困る面が出てくる。今は貝森小に余裕があり、国見や中山の方々も利用している。国見小の施設に余裕がないということも関係があるかと思う。



- 指定避難所としての役割は大事である。統合して国見小だけになったら、受け入れ人数の関係などで、災害時に貝ヶ森の住民はどこへ行ったらいいか、という心配が出てくる。
- 指定避難所の役割は大切だが、小学校でなければならないということではない。地域コミュニティとの関係も大切だが、子どもの教育を直接捉えて考えていくことが大切ではないか。

【保護者や地域の方々の思い】

- 初めての入学を迎える保護者は、少人数ということについていろいろ考えると思う。地域との関係が良いから大丈夫と伝えたいが、保護者の不安をどう解消できるかと考えている。
- 入学を迎える保護者から、教育内容よりも少人数でクラス替えがないことで人間関係はどうなのかと聞かれることが多い。
- 子どもが入学するときに少人数ということに気がしたが、少人数だからこそすぐ学校に馴染めたということもあり、良かったと思う。
- 貝森小の保護者は PTA の役員を長く務めることが多く、家庭生活にも影響が出てくる場合があり負担となっている。
- 町内会の役員も選ぶのは大変である。なり手がなく、抽選や順番で選ぶこともあり、これでいいのだろうかと思うこともある。



- 小規模校と大規模校のどちらが良いかは子どもによって違い、「慣れ」なのかと子どもの経験から思った。
- 小規模校と大規模校での学習内容の変化について、保護者が心配しているので、もう少し話し合ってもよいと思う。

【今後の話し合いに向けて】

- 5 年先 10 年先に子どもたちをどういう環境で教育するか、小学校という教育の場や教育活動、地域の活動を考えていったほうがいいのか。
- 学校と地域の関わりを考えると、地域の人間構成が今後どう変わっていくかを正面に捉えた上で、子どもの教育がどうなるのか考えたほうが良い。
- 国見小と統合しても、学校は遠くなるが子どもたちと地域の結びつきがなくなるわけではない。子どもたちの将来を見据え、子どもたちが自分の生き方をつかんでもらうということを考えるべきである。私たちが子どもの行く手を阻むことをしてはならない。
- あまり学校と地域の関わりにとらわれず、実際の教育のことや、子どもや保護者の考えを尊重していったほうがいいのか。
- 跡地の利用については、今後の方向性が決まってから話し合うとよいと思う。今の段階で議論すると方向性が固定化してしまうので、結論が決まったら触れるというふうにしなないといけないと思う。
- 子どもが「小学校をなくすのは寂しい」と話していた。なくすのは簡単だが、もう一度作るのは難しいと思うから良く考えなくてはいけない。
- 統合した場合に学校や地域がどう変わっていくのか見えず、その点についての議論が今後必要になってくると思う。



【第 4 回貝森小学校地域懇談会の開催日程】

日 時：平成 25 年 2 月 16 日（土）10 時から
場 所：貝ヶ森市民センター 2 階 会議室
テーマ：今後の貝森小のあり方について

事務局：仙台市教育委員会事務局
学校規模適正化推進室
電 話：214-8432
FAX：264-4428
Eメール：kyo019031@city.sendai.jp

取組み内容はホームページでもご覧いただけます

仙台市教育委員会 一定規模確保

検索